

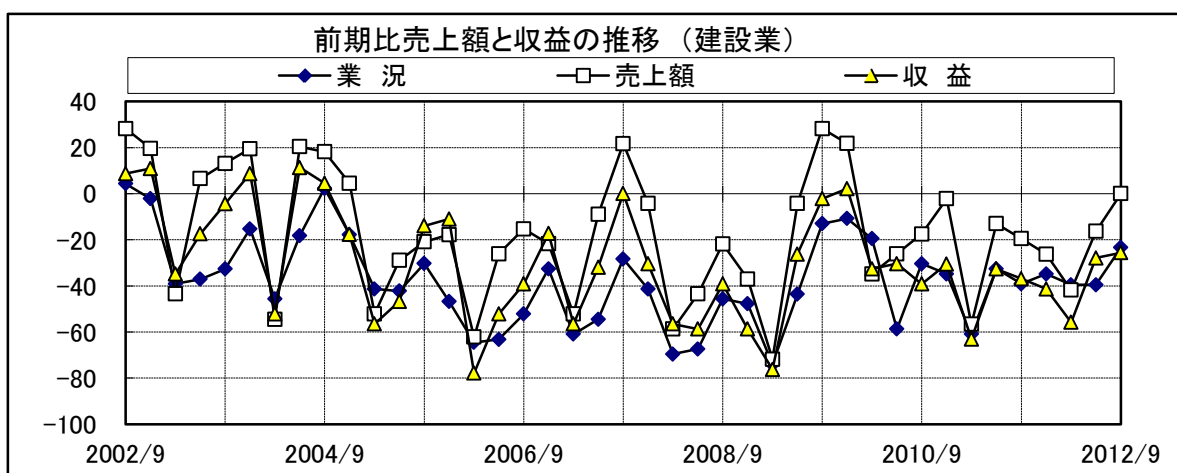
建設業 43企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-39.5	-39.5	-23.4	-37.2
売上額	-41.8	-16.3	0.0	-23.3
収 益	-55.8	-27.9	-25.6	-44.2

今期の業況判断DIは $\Delta 23.4$ と、前期比 16.1 ポイント改善となった。地区別にみると、静内、三石、様似、広尾地区で上昇し、えりも地区で下降し、浦河地区は横ばいとなっている。

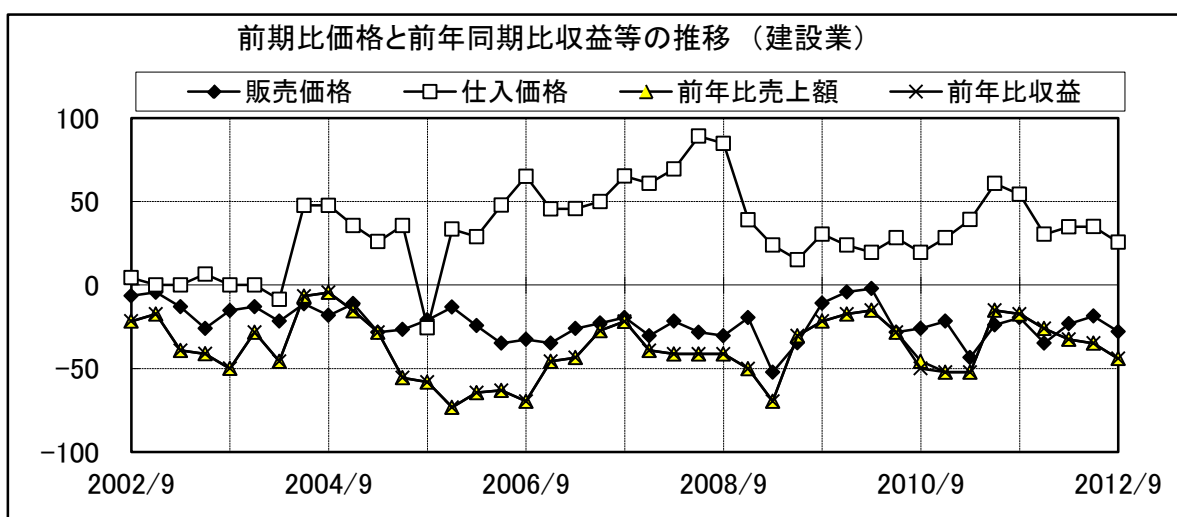
売上額判断DIは前期比 16.3 ポイント上昇し、ゼロ水準となった。収益判断DIは $\Delta 25.6$ と、前期比 2.3 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
請負価格	-23.2	-18.6	-27.9	-27.9
仕入価格	34.9	35.0	25.6	18.6

請負価格判断DIは $\Delta 27.9$ と、前期比 9.3 ポイント下降し、価格低下基調を強めている。仕入価格判断DIは 25.6 と、前期比 9.4 ポイントの下降で、価格上昇基調は弱まっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-0.1	-18.6	-18.6	-7.0
人手状況	7.0	11.7	0.0	-13.9

残業時間判断DIは $\Delta 18.6$ と、残業時間が減少したとする割合は前期と同値となっている。

人手過不足判断DIは、前期比 11.7 ポイント下降し、人手過剰感が解消された水準となった。

□ 設備投資の動き

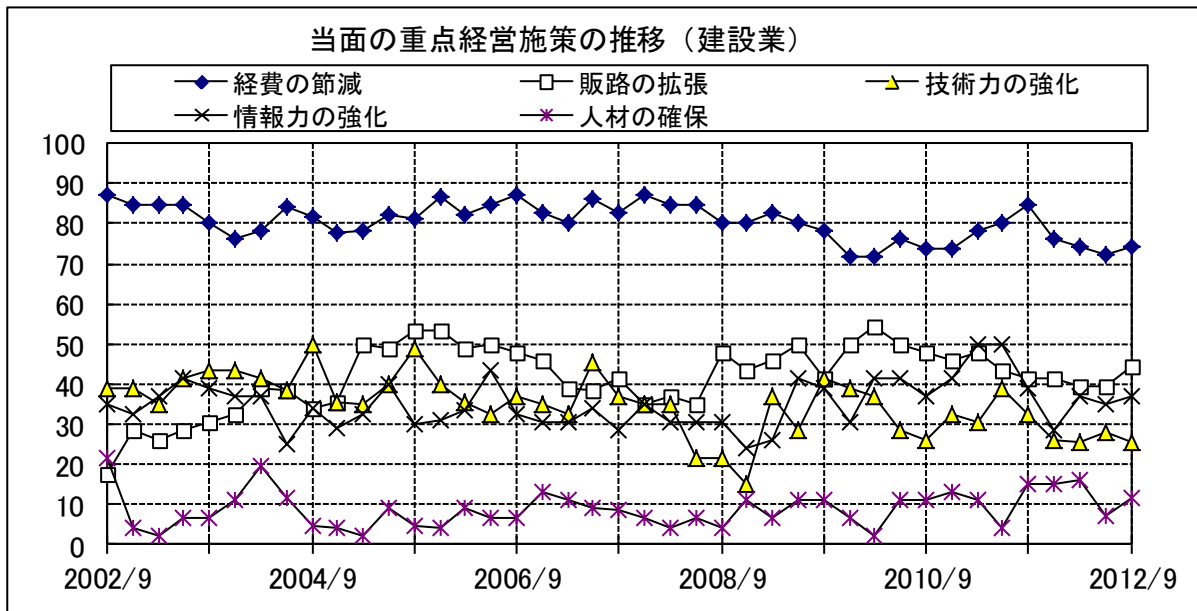
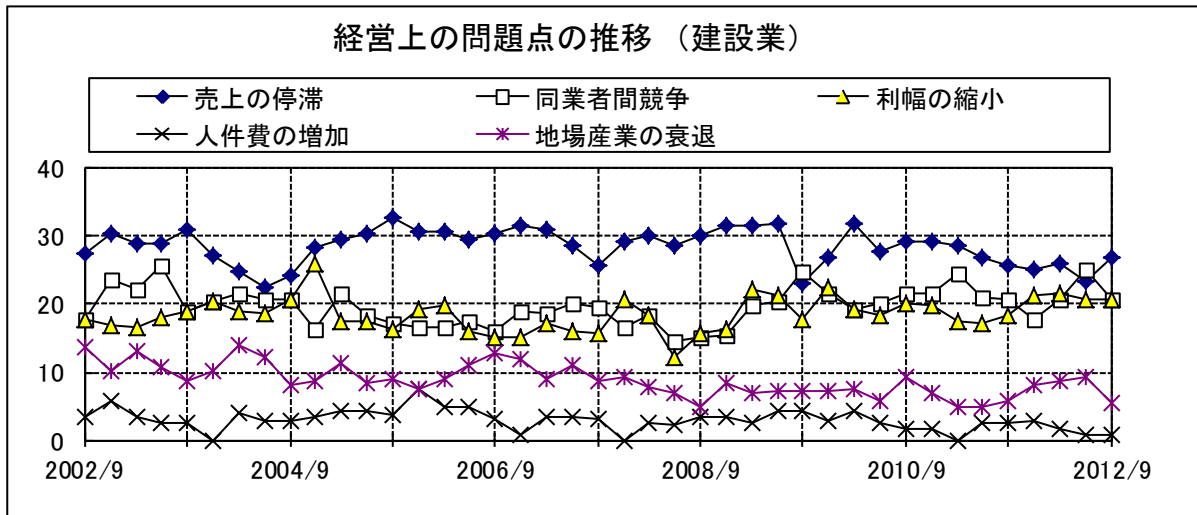
設備投資の充足感を示すD Iはゼロ水準で前期横ばいの値となった。

設備投資実施企業割合は20.9%と、前期25.6%比4.7ポイント下降、前期の11社に対し9社の実施となった。来期の設備投資は、当期比4社減の5社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ27.0%、次いで「同業者との競争」、「利幅の縮小」が同値の20.7%で続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ74.4%、次いで「販路の拡張」44.2%、「情報力の強化」37.2%、「技術力の上昇」25.6%の順となっている。



来期の見通し

来期の予想業況判断D Iは $\Delta 37.2$ と、今期 $\Delta 23.4$ と比べ13.8ポイントの下降見通しとなっている。

予想売上額判断D Iは $\Delta 23.3$ と、今期と比べ23.3ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D Iは $\Delta 44.2$ と、今期 $\Delta 25.6$ と比べ18.6ポイントの下降を見通している。

予想請負価格判断D Iは $\Delta 27.9$ と、今期と同値の横ばいを見通している。

一方、予想仕入価格判断D Iは18.6と、今期25.6と比べ7.0ポイントの下降を見通している。

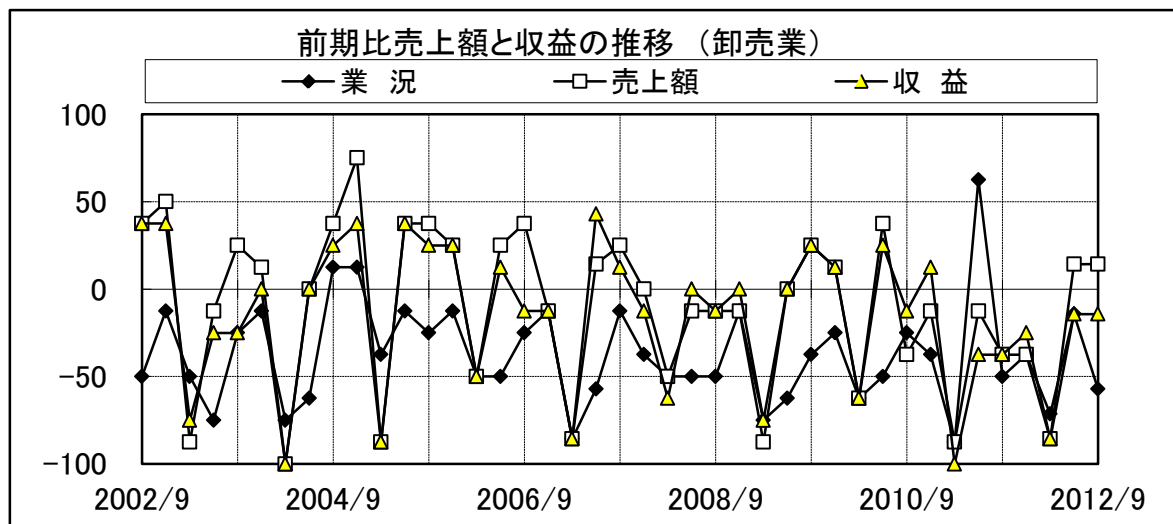
卸売業 7企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業況	-71.4	-14.3	-57.2	-57.2
売上額	-85.7	14.2	14.3	14.3
収益	-85.7	-14.3	-14.3	-14.3

今期の業況判断DIは△57.2と、前期比42.9ポイントの下降となった。地区別にみると、浦河、三石地区で下降、静内、様似地区で横ばいとなっている。

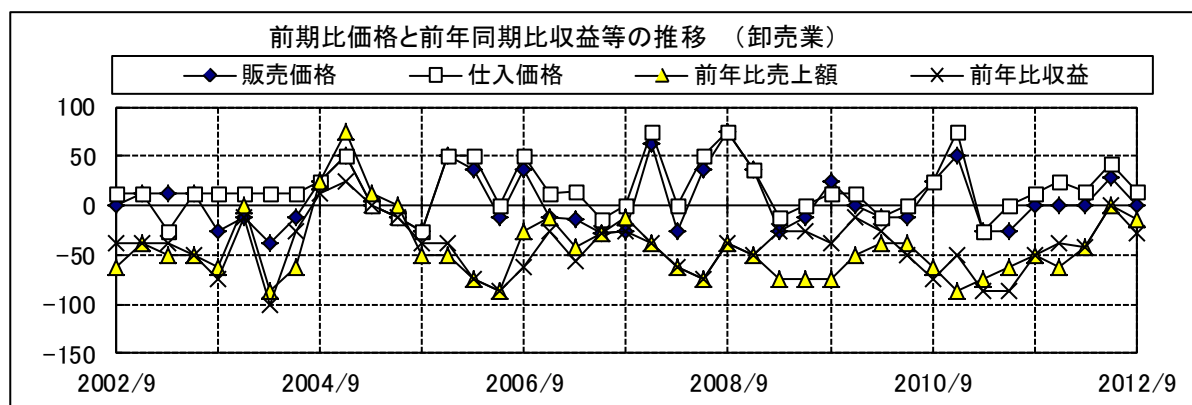
売上額判断DIは14.3と、前期比0.1ポイントの上昇でほぼ横ばいの動き。収益判断DIも、△14.3で、前期比横ばいの動きとなった。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	0.0	28.6	0.0	28.6
仕入価格	14.3	42.9	14.3	42.8

販売価格判断DIは、前期比28.6ポイント下降しゼロ水準となった。仕入価格判断DI14.3は、前期比28.6ポイント下降し、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、水産は販売価格、仕入価格とも下降し、食品は販売価格、仕入価格ともに横ばいとなっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	0.0	0.0	14.3	14.3
人手状況	14.3	14.3	14.3	-14.3

残業時間判断DIは、ゼロ水準から、14.3となり残業時間が増加したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断DIは前期と同値の14.3ポイントとなり、横ばいの過剰感が続いている。

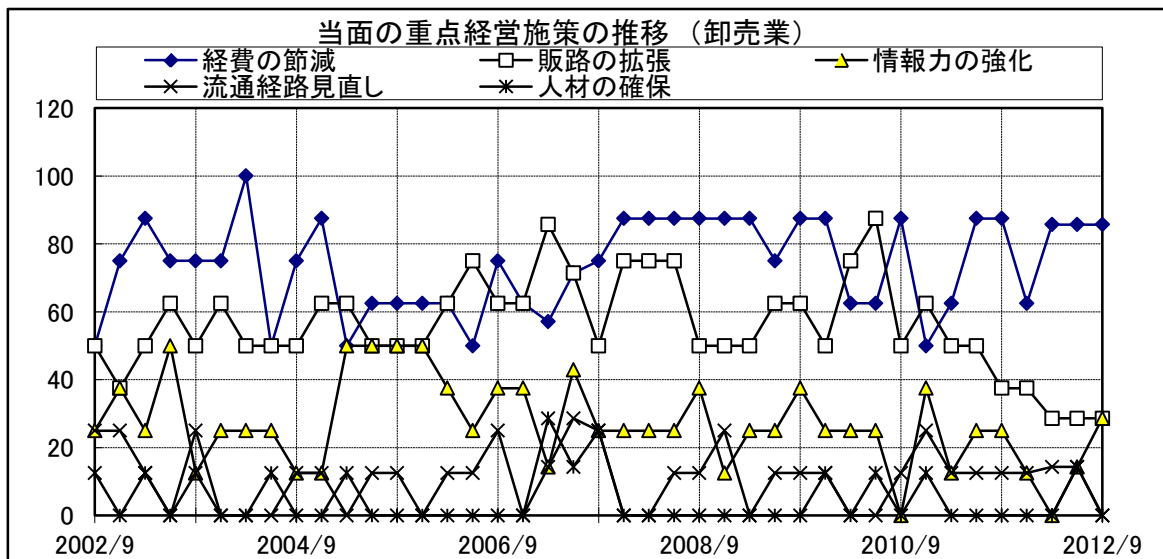
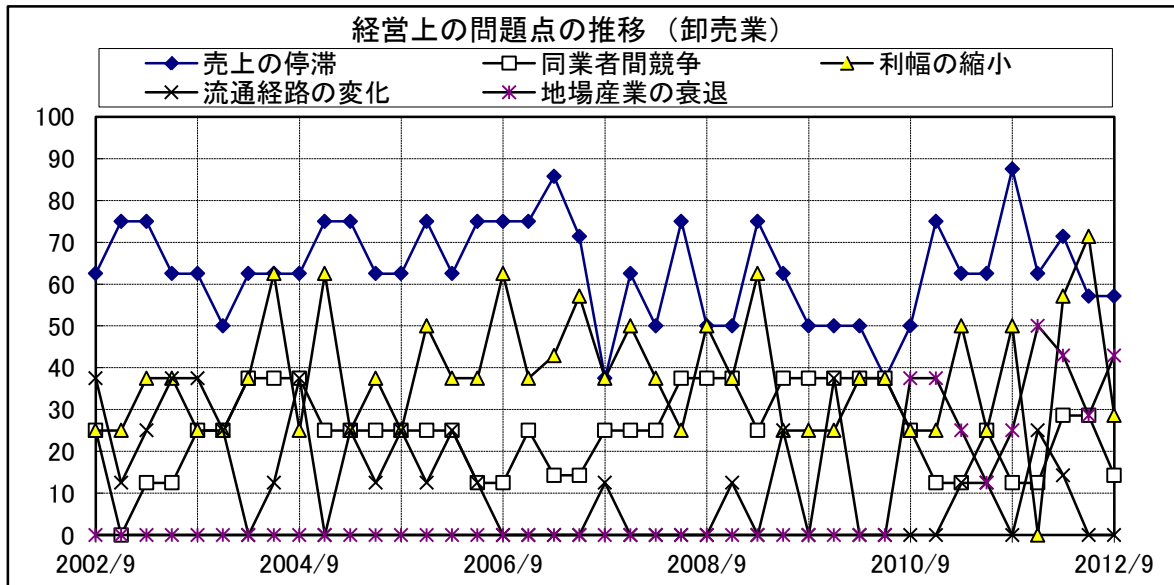
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iはゼロ水準で、前期から14.3ポイント下降した。設備投資実施企業は、前期1社の実施に対し0社となった。来期の設備投資は、1社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」57.1%、「地場産業の衰退」42.9%、「利幅の縮小」、「輸入製品との競合」、「取引先の減少」が同値の28.6%で続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ85.7%、次いで「販路の拡張」、「品揃えを充実する」、「情報力を強化する」が同値の28.6%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D I Δ 57.2、予想売上額判断D I 14.3、予想収益判断D I Δ 14.3 は、いずれも今期と横ばいの数値を見通している。

一方、予想販売価格判断D Iは28.6と、今期0.0と比べ28.6ポイント上昇見通しとなっている。

予想仕入価格D Iも42.8と、今期14.3と比べ28.5ポイントの上昇で、販売、仕入ともに価格上昇基調が強まる見通しとなっている。